第67回 全国高等学校PTA連合会大会
静岡大会

速報
東京都公立高等学校PTA連合会発行

平成29年8/24(木)・25(金)
【会場】エコパアリーナ(メイン会場)・静岡市民文化会館・静岡市清水文化会館マリナート・アクトシティ浜松
【主 催】一般社団法人 全国高等学校PTA連合会　【主 管】静岡県公立高等学校PTA連合会

全国高等学校PTA連合会研究発表 ネットトラブルの予防と対策

今年度のＰＴＡ連合会研究発表は基調講演講師に株式会社ＫＤＤＩ総合研究所研究主査を務める斎藤長行氏をむかえインターネットを使用する青少年のネットトラブルについて講演頂きました。その場で行ったＱＲコードでのアンケートでリアルタイムに行える利便性を知らせるとともに、「やりはじめたら、やめられない」など身の回りで起こりうるネットトラブルの予防、対策について伺って頂きました。また、第二部のパネルディスカッションでは静岡大学准教授塩田真吾氏をコーディネーターにむかえ、『高校生 ICT Conference 2016 サミット』に参加し、高いプレゼンテーション能力を評価される高校生の実際に体験したインターネットの怖さ、保護者として何をすべきか、何ができるかなど、パネリストの実体験や総務省の見解など貴重な議論を聴く事が出来ました。　【寄稿：都高Ｐ連副会長 高田 教子】

記念講演「筧利夫　これがオレの生きザマだ!」 俳優 筧 利夫 氏

筧 利夫氏、登場するやいなや「どうも!関ジャニ∞の村上で一す!」
昨日からの参加者の疲れを吹き飛ばすような笑いの渦に。
司会進行のアナウンサーとのトークショーでしたが、緊張の為か?少々暴走気味の司会進行にキレの良いツッコミを入れ、9000 余の参加者の気持ちを笑いで１つにしてくれました。「やりたい事はやる。やりたい事をやり残したらダメ」という気概を持って、役者道を歩んで来た筧さん。
テンポの良い話が面白く、ついつい普通に楽しんで聞いていました。
「子どもたちは皆んな、何かを考えているはず。ですから皆さん、親子関係を築くために、絶対にお子さんの LINE は盗み見ないで下さい!」
最後の言葉が、とても印象に残りました。
「心をほぐして、会話をする」「子どもを信じる」
何より大切な事を感じました。　【寄稿：調査広報委員 本城 菊乃】

基調講演「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」静岡大学名誉教授 小和田 哲男 氏

昔は、今の様な学校は無かった。その頃の学校に代わるものはお寺。武将の子供たちが読み書きを教わっていた。地位のある武将の子弟は将来人の上に立つことを踏まえて、読み書きだけでなく人の資質を問う様な帝王学もお寺で勉強をする機会があったと思われる。
論語や中庸などの中国伝来の書籍、鼓や和歌なども教養の一つとして学んだと記されている。ではなぜ武将の子弟はお寺で学んだか?それには大きな２つの理由がある。
①兄弟が多いと跡継ぎ争いが起きるので一人二人残して後の子はお寺に入れる。
長男に何かあった時は寺から呼んでくる。この地の武将、今川義元は大原崇孚（たいげんそうふ）雪斎というお坊さんに教育を受けた。その時今川家の人質であった松平竹千代、のちの徳川家康も雪斎から教育を受けた。
井伊直虎は南渓瑞聞（なんけいずいもん）と言うお坊さんに、伊達政宗は虎哉宗乙（こさいそういつ）に、上杉謙信は天室光育（てんしつこういく）に教育を受けた。謙信に至っては子供の頃、天室光育から教わった事が役に立ち、手柄を建て、後に長男長尾喧景から家督を交替する事になったと言われている。
師であったお坊さんは後に軍事顧問や相談役となり武将の側にいたとされている。
②「一子出家すれば九族天に生ず」
一人の子供が出家すれば九つの家族が天国に行かれると言う教えがあった。その時代の武将は人殺しが仕事みたいなもの。仏教には殺生してはならぬという教えがあり、それを犯してる自分達はいずれ地獄に落ちるという思いがあった。その救いが「一子出家すれば九族天に生ず」だった。
　では、庶民の子供達は全く学ぶ機会がなかったのか?と言うとそうでもない。現在の福井県の方では。村人たちが、子ども達には きちんと読み書きをさせたいと、道行くお坊さんなどに声をかけ、衣食住の面倒を見る代わりに村のお堂などで子ども達を教えてもらっていたと言う資料がある。今迄の話は後の学校に通じる、教育の場面です。
　次は、親から子へ、子から孫への教育と子育てについてのお話。
「武辺咄」…それは先輩武将が後輩へ、自分の体験談を話して聞かせるというもの。話し手は話すだけ、聞き手は聴くだけであったが、今の福井県のかつての武将朝倉宗滴が、自分の体験談を家臣に記録させていた。
その中に「一度大敗北を喫した者でなければ名将にはなれない」とある。どこかで大負けをして、その経験がその後の人生を作るんだと読んだ時に、徳川家康が浮かんだ。
三方ヶ原の戦いでの大敗を教訓に、それから家臣を大事にした事により名将になったのだ。この様な親、主人の経験を子や後継に伝えて行く事が昔の子育てではないか、と思う。
北条氏綱（北条家二代目）が自分の子ども氏康に宛てた遺言状（帝王学の伝授）が残っている。その中に「上に立つものは家臣のどのような所が役に立つのかを見極め、役に立つ所に置くのが上に立つ者の務めだ」と言われている。
今で言うところの「適材適所の人事配置」。このような教えが戦国時代において五代百年もの北条家が続いた要因ではないかと思う。
その遺言状に「人間にくずはいないんだ」とも書かれている。
何かしら良いところがありそれを見つけるのが大事だと。
学校教育も大事だが生涯教育も大事である。
【寄稿：農業高校 横溝 早百合】

第１分科会 学校教育と PTA ～「有徳の人」を育てる学びの場の充実～

学校教育では、学習指導要領が求める「確かな学力」の向上、資質・能力の伸長を図ると共に、「徳のある人間性」と「健やかで逞しい心身」を育む事が必要。豊かな感性や社会性等を育む学びの場の充実が求められている。PTA が子どもたちによりよい学びの場の提供を、学校と連携しどう支援していくかを考える。
【青森県立八戸工業高校】文化祭で「ＰＴＡ豚汁販売」。保護者にも広く協力を呼びかけ、ＰＴＡ、学校後援会、同窓会と、会員の世代を超えた協力で学校行事をはじめ諸活動を支えている。
【山梨県立甲府昭和高校】フードバンク活動（十分に安全な食料を、施設や団体に無償で提供する）をＰＴＡが各家庭に呼びかけ回収、仕分けを行い、ＮＰＯへ送る。この活動は、調べ学習のテーマとしても取り上げられた。
【石川県立小松高校】「読んでもらう広報誌」を目指し、特集「子どものホンネ」「親のホンネ」を掲載している。ＰＴＡ活動満足度アンケートで現状の確認と保護者に関心をもってもらう工夫をしている。
【島根県立矢上高校】H19 年高校再編時、学校存続の危機になる。ＰＴＡ、地域が協力し署名活動を行い、県外入学希望者の保護者との交流、学校と地域の連携への協力等で３学級での存続に繋がった。PTA は、生涯学習のはじまり。PTA 活動、地域活動を通して自身も学び、親と子の距離を縮める事が有徳の人の基礎になる。　【寄稿：富士森高校　藤原　富夫】

第２分科会 進路指導と PTA ～「有徳の人」を育てる希望進路の実現～

進路指導と PTA ～「有徳の人」を育てる希望進路の実現～というテーマに対して、４校の発表がありました。各学校とも各々特色がありました。山形県立鶴岡南高等学校では鶴南ゼミに取り組み、発表会では保護者の参観も多く関心が高いとの事です。又、出身中学校ごとに地区 PTA を設け、保護者同士が情報を共有し、親睦と連携を深めているという事です。岐阜県立中津高等学校では保護者のための進路サポート勉強会に毎回 100 名を超える参加者があるとのことです。大学キャンパスツアーを実施していますが、大阪市立ビジネスフロンティア高等学校でも実施していました。宮崎県立高鍋高等学校は映像を使っての発表でしたがとても伝わりやすかったと思います。発表の中でも、高鍋わくわく講座はとても興味深い内容でした。各学校とも PTA の関わりが深く、感心させられた内容が多く、とても良い時間を過ごせました。
【寄稿：永山高校　佐野栄子】

第３分科会 生徒指導と PTA ～「有徳の人」を育てる「命を守る教育」の推進～

「命を守る教育」という課題に対する各校の取り組みは、食育・マナー教育・安全教育・心の成長のサポートなど、多くの事例の発表があり、興味深く拝聴させていただいた。どの活動も、親がかかわる姿を見せること、多くの大人たちの言葉を聞く機会を持つことが、難しい年代の子どもたちにとって有益である。そして、身近に起こり得る事件・事故・災害を“想定外”にしないための想像力を養うことが「命を守る」ことにつながる大切なことだ、という点が共通していた。地方と東京では、学校と保護者・地域の距離感がかなり違っており、都市部での取り組みカをよく考えて、実践する必要性についての難しさも、改めて考えさせられた。いずれにしても、地域性・学校の特色の違いに関係なく、親として子どもたちと関わる時間が残り少ないことは確かである。その限りある時間の中で、教師や保護者たちが、どれだけ真剣なコミュニケーションをとることができるか・・それが、子どもたちに、これから災害だけでなく、社会生活で直面する様々な状況においての「命を守るために必要な判断力」を持たせるために重要だと強く思った。
【寄稿：永山高校　矢島 亜紀】

第４分科会 家庭教育と PTA ～「有徳の人」を育てる家庭教育の充実～

ＰＴＡ活動の各校のキーワード
【北海道室蘭清水丘高校】「親も楽しむ」、【東京都立板橋高校】「つながり」、【兵庫県立尼崎稲園高校】「伝える力」、【香川県立高瀬高校】「見守り」
何れも、子どもたちに親の背中を見せる事で子供に成長を促し、自立に導き、家庭での会話を増やす事で親子の信頼関係は深められる事を強く感じさせる発表でした。
中でも、ＰＴＡ活動をＰＴＣＡ（Ｃ：コミュニティ）と呼び、地域との関わりを強く意識し、地域住民と共に生徒、保護者も参加する活動を数多く企画。人との繋がりから人間力を向上させよう!という尼崎稲園高校の発表は強く印象に残りました。

～助言者から～
静岡産業大学　漁田俊子教授「親の背中を見せるのが家庭教育」、石田純夫講師「親が元気ならば子供も元気、親がエンジョイしなければ子供は付いてこない」でした。
【寄稿：八王子東高校　桑原 淳一】

特別第１分科会 「有徳の人」を育てる防災・減災教育の推進 ～防災・減災能力の醸成～

私の娘が通う高校は丘陵地帯にある為、台風、震災が起きた時の対策についてはいつも話し合っていますが、違った視点から災害について考える機会は少ないので、この分科会に参加しました。
基調講演　静岡大学教授のお話
静岡は地震対策として津波の他に火山活動に留意していて、そのために様々なジャンルの方を危機管理行政に加えている。古地図を用い、低地や湿地で昔は住めない地域も今では住宅地になり、災害が起きた時には危険である。ちょっとした災害には知恵で対処出来ていた昔。しかし今は情報が発達し、自分で考えることが減り、日常の災害対策はしている気になっている。実際に震災が起こると実は何も対策がされておらず、毎度同じ被害が起きている。現在は「防災」という起こらない想定ではなく、起きてしまった時に被害を減らす「減災」への意識を持つように促している。
有事に地域の核になるのは学校。各学校が門戸を開き地域防災の核になっていってほしい。
と呼びかけていました。
学校生活のみならず PTA 活動を通じて地域とも繋がる重要性を学び考えることが出来る貴重な時間となりました。

【寄稿：南平高校　三宅 まり子】

特別第２分科会 「有徳の人」を育てるグローバル教育と コミュニケーション能力の育成

世の中は急速なグローバル化が進んでいる。IT 化も進みネットワークも全世界に繋がり色々な情報があふれている。
そんな中で日本人には何が足りないのか?インドのジョークで
① インド人のように物静かで ②日本人のようにハッキリと主張し ③韓国人のように忍耐強い、さらに④中国人のように謙虚で⑤北朝鮮のように裕福なら、なお良い!というのがある。
日本人は意見を主張しない事が挙げられている。子供達に求める能力は様々だが、教育では「テスト有りき」で現代社会の多様な要求に応えていない。しかし、2020 年に大学入試が変わる。これから大きく教育が変わろうとしている。コミュニケーションだけでも、まずは小さな事から始めよう。
ここで、次の５つの事を教わった。①挨拶②名前③趣味④好きな事⑤ありがとう。これを、恥ずかしがらずする事で日本人のコミュニケーション能力が少し上がるはず。
最後に、グローバルと聞くと直ぐに海外と思われがちだが、先ずは日本の事を知り社会を知る事で、社会人として立派に働ける人材になって欲しいと思う。
【寄稿：都高Ｐ連副会長 西藤 義則】

静岡大会の詳しい情報はこちらよりどうぞ
www.hs-pta-shizuoka.net/pta_shiz2017